

料金について

受け入れ費用	● 40人まで 半日:70,000円／一日:80,000円 ● 40人以上 半日:1人2,000円×人数／一日:2,200円×人数
所要時間	1コース2.5時間程度 組み合わせ自由
最少催行人数	1名
最大催行人数	1コース40人(コースの組み合わせにより、最大200人程度可能。要相談)
事前・事後学習	各回15,000円
その他	施設使用料・バス代・乗船代については、別途実費が必要となります。

近隣の研修の提案



問い合わせ先・事務局

受付対応時間 | 平日8:30-17:00

公益財団法人 水島地域環境再生財団(みずしま財団)

〒712-8033 岡山県倉敷市水島東栄町11-12

<https://sdgs.mizushima-f.or.jp/>

TEL 080-3897-3441 FAX 086-446-4620

MAIL comizushima@gmail.com



OKAYAMA
PREFECTURE

KURASHIKI
CITY

MIZUSHIMA

水島を学びの
フィールドに

水島

MIZUSHIMA

教育旅行 研修
パンフレット

みずしま滞在型環境学習コンソーシアム

岡山県倉敷市水島地域の紹介

水島は、日本の歴史の中で重要な役割を果たしてきた土地です。明治・大正時代には、高梁川の改修が行われ、アジア・太平洋戦争中には軍需工場が進出しました。戦後には、地域開発が進み、水島港の開発と埋め立てによって水島臨海工業地帯(水島コンビナート)が形成されました。この地域は、新産業都市として発展し、岡山県を農業県から工業県へと変貌させる原動力となりました。

さらに、水島では空襲や公害なども経験しており、様々な試練を乗り越えてきました。しかし、その歴史的な経緯から、開発と環境保全の足跡をたどることができる貴重な場所となっています。水島は近代の息吹が凝縮された街であり、その歴史を通じて、地域の発展や変化を垣間見ることができます。



みずしま滞在型環境学習コンソーシアムとは

「みずしま滞在型環境学習コンソーシアム」は、倉敷市、倉敷商工会議所、岡山大学、地元企業、そしてまちづくり団体などが協力し、水島を平和・公害・環境学習のフィールドとして活用するための円卓組織として、2018年に設立されました。このコンソーシアムは、「持続可能な開発目標」(SDGs)の達成に向けて活動しており、水島の環境や歴史的背景を活かし、地域社会の発展と環境保全に貢献しています。



私たちが案内します！



古川 明

MPMラボ

みずしま滞在型環境学習コンソーシアム会長



塩飽敏史

みずしま財団



福田憲一

みずしま財団



藤原園子

みずしま財団



井上正貴

ハルハウス



吉田淳一

萩原工業株式会社



村田秀石

亀島山地下工場を語りつぐ会 亀島山地下工場を語りつぐ会 倉敷古城池高校生



吉田弘実

岡山県立
倉敷古城池高校生

水島だから学べること

「持続可能な開発目標」(SDGs)とは、2015年9月の国連サミットで決められた、2030年までによりよい世界をめざすための国際目標です。「持続可能」とは、環境などが健全な状態に維持されることであり、そのためによりよい社会発展や開発のあり方が模索されているのです。

水島は過去のさまざまな時代の開発を経験してきた場所です。水島には、「経済」「社会」「環境」の関係について深く考えさせられる素材が豊富に揃っています。「持続可能な開発」を実現するためには、これらの要素をバランスよく考慮し、総合的な視点から取り組むことが不可欠です。



近代の開発には、良い面と悪い面の両方が存在します。例えば、明治末～大正期の高梁川の河川改修は、水害を軽減する目的で行われましたが、他方で、2018年の西日本豪雨における真備の水害の遠因をつくったともいわれます。廃川となった旧東高梁川には水島の街が築かれ、地先には軍需工場がつくられました。空襲を避けるために建設された亀島山地下工場は、岡山県最大級の戦争

遺跡となっています。軍需工場は空襲を受けましたが、戦後の水島臨海工業地帯の基盤にもなりました。工場建設は地域経済の成長をもたらしましたが、他方で公害問題を引き起こしました。その対策として、環境監視センターも設置されています。こうした地域開発の両面を見ることで、物事を多角的に考える視点を養うことができます。

水島の過去から学ぶ



公害からの再生を学ぶコース

■見学先

みずしま資料交流館、鴨が辻展望台、亀島山など



■概要

水島の地域開発と、それに伴う公害の歴史、倉敷公害訴訟後の環境再生の取り組みについて学びます。鴨が辻または亀島山から、水島の街と隣接するコンビナートを眺望し、公害の被害と開発について考えます。



■開発

開発と地域社会について学ぶコース



■見学先

旧中山家住宅



■概要

連島には大正3～4年頃に建設された旧中山家住宅があります。久原財閥の番頭だった中山説太郎の邸宅で、水島コンビナートの企業誘致について議論をした場所でもあります。古い町並みが残る連島から、開発と地域社会の関わりを考えます。



■平和

平和と多文化共生について学ぶコース



■見学先

亀島山地下工場



■概要

水島には岡山県最大級の戦争遺跡・亀島山地下工場があります。軍用機の製作所が空襲を避けるために作られた秘密の工場です。工場を掘ったのは朝鮮人労働者です。戦争遺跡を体感し、平和と人権の大切さを学びます。



■災害

開発と災害・防災を学ぶコース



■見学先

板敷水門、千人塚



■概要

高梁川の河口部に位置する倉敷は、新田開発が活発でした。新田開発は干拓によって行われ、その樋門となった板敷水門(日本遺産)が残されています。また干拓地ゆえにおこった、台風の高潮による明治17年の水害の無縁仏を埋葬した千人塚を訪問します。



水島の現在から学ぶ



環境問題と産業の変化を学ぶコース



■見学先

萩原工業株式会社または水島港(コンビナートクルーズ)



■概要

もともとはイグサの産地として有名だった倉敷。イグサを使った花ござ産業から、石油製品であるブルーシート製造に転換した萩原工業株式会社は水島の変化を体現しています。また、コンビナートクルーズを展開することも可能です。



■まちづくり

まちづくりに取り組む人たちに会い学ぶコース



■見学先

水島地域のまちあるき



■概要

水島には、元気に街づくりに取り組んでいる人がたくさんいます。商店街は以前に比べれば少し寂しくなっていますが、まちを再び活性化するためにはどうしたらよいかの課題に直面しています。まちを歩きながら、地元の人たちと一緒に考えましょう。



■福祉

子どもの居場所づくりを学ぶコース



■見学先

ハルハウス(水島こども食堂ミソラ♪)



■概要

貧困や障がいなど、人生で困って孤立する場面に遭遇することは少なくありません。そのような状態になった時に、救いの手となるのが「居場所」です。子ども食堂の活動から、助け合いの力を学びます。



■環境対策

環境監視の仕組みを学ぶコース



■見学先

倉敷市環境学習センター、倉敷市環境監視センター



■概要

行政による環境対策の一つとして、環境の監視があります。コンビナートを有する倉敷では、水島地域を中心に常時監視を行い、大気汚染の状況を把握しています。持続可能な開発のための、行政の役割を学びます。

問題解決学習(PBL)

モデルケース

事前学習 45分×2コマ

ZOOMを利用してながら、
事前学習を行います

- 水島地域の概要説明
- 各コースの事前配布資料の説明
- 水島訪問にあたっての「問い合わせ」を考えるグループワーク



事前資料として
小冊子「水島メモリーズ」をお渡しいたします

おすすめします！



大津市立青山中学校

学年の総合学習の取り組みの中核にSDGs学習を置いていたため、広島近辺でSDGs学習ができるところを試案しました。下見をしてぜひ、生徒に学ばせたい内容だと感じました。生徒はクラスごとに5つのテーマに分かれて学習し、どのクラスも熱心に参加できました。その後、学年の取り組みとしてSDGs宣言を掲げ、日々の取り組みとして行っています。



岩淵 泰
岡山大学文明動態学研究所
准教授

水島地区では、公害から環境まちづくりへの歴史的変遷に加え、少子高齢化や商店街の衰退という現代的課題のなかで、新しい市民活動が芽生えています。環境学習の幅も広く、子どもから大人まで実践的な学びを得ることができます。学びのテーマを決めるところからコンソーシアムに相談して下さい。



除本理史
大阪公立大学大学院
経営学研究科教授

ゼミ研修でお世話になりました。文献学習だけではわからない、多くの学びがあったという感想が参加者から寄せられています。何より、まちづくりに取り組む人たちの深い地元愛に圧倒されました！ とのこと。これも「困難な過去」をもつ水島ならではのポテンシャルだと思います。継続的に足を運びたいと思います。



倉敷市
企画経営室

本コンソーシアムでは、産学民官の連携により、倉敷市の産業・経済の中核を担う水島地域を「世界一の環境学習のまち みずしま」として、訪れた方々に学びの場を提供する取組を進めています。その取組の一環として造成した8つの研修コースは、水島地域の資源や歴史を活用し、様々な視点から学べるプログラムとなっていますので、一人でも多くの方に体験していただければと願っています。

事後学習 45分×2コマ

ZOOMを利用してながら、
事後学習を行います

- 水島を見学して考えたこと、事前に考えた「問い合わせ」の答え、自分たちの地域の課題についてグループワーク
- 各グループの発表



メッセージ

三村 聰
みずしま滞在型環境学習コンソーシアム副会長 岡山大学副学長(ローカル・エンゲージメント担当)
・大学院社会文化科学研究科教授



高梁川流域連盟の精神である「高梁川流域の人はこの川を機縁として互いに理解を深め、相親しみ、協力してこの川を守り、この川で培われた文化や産業の共同体をより美しく、より合理的に築きあげなければならないと思う」にSDGs思考を取り入れ、地域共創により、明るい未来をめざす教育活動を実践しています。どうぞご参加ください。